

2020. 1. 24 (金)

朝日新聞

喫煙 & 飲酒 → 食道がんリスク 8 倍

喫煙と飲酒の両方の習慣がある男性は、食道がんのリスクが急激に高まることを、愛知県がんセンター研究所（名古屋市千種区）などのチームが明らかにした。どちらか一つでもやめるとリスクを大幅に下げることができるという。

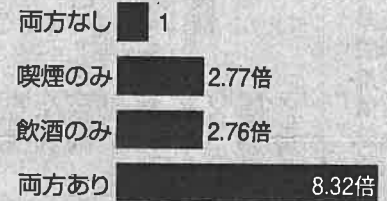
同研究所がん予防研究分野の尾瀬功主任研究員（がん疫学）らが、国内で1980年代ごろから実施された八つの調査に参加した16万2826人の男性のデータを解析。喫煙率は60.6%、飲酒率は78.5%だった。平均追跡期間は

愛知県がんセンターなど

12.6年で、全体のうち954人が食道がんを発症していたという。

解析の結果、喫煙も飲酒もしない人を基準とすると、喫煙者の食道がんリスクは2.77倍、飲酒者は2.76倍だったのに対し、両方する人は8.32倍だった。喫煙のリスクと飲酒のリスクを単純に足し合わせた以上にリスクが上昇していた。喫煙量と飲酒量の関係を調べると、いずれも量が多い組み合わせほどリスクが高い傾向があった。尾瀬主任

喫煙・飲酒の組み合わせと食道がんのリスク



研究員は「喫煙と飲酒の両方をやめた方が予防効果が大きいが、片方だけでもやめる意味はある」と話している。（木村俊介）

16万人分解析「片方だけでも やめる意味ある」